1

特集 美容皮膚科医が知っておきたいメイクアップの知識

化粧・メイクアップとは？ その目的・意味

鈴森正幸
ポーラ文化研究所

今，化粧は，多くの女性にとって身近で，関心が高く，さまざまな情報が飛び交っている日常行為である．日々あたりまえのようにファンデーションを塗り，チークをさし，リップをつけているが，ではこうした行為をなんのために，なぜ行っているのだろうか．その答えの手がかりとして，化粧を〈化粧行為〉〈化粧の目的〉〈化粧をする動機〉の３項目から分析し，次に日本の化粧文化の変遷を概観し，最後に現在のメイクアップの位置づけと化粧の目的とされる「美しさ」について考察した．「化粧とは？」の知識が深まることで，一人ひとりの化粧がより意味あるものになるのではと考える．

はじめに

現在の日本では，化粧は一般的にスキンケアとメイクアップに分けて認識されるが，歴史的・社会的な化粧は変遷を重ねた文化である．文化的な行為の化粧は，「歴史的にあらゆる文化のもとで行われている普遍的行為である」，そして「現在の化粧は，社会や時代の影響を受けて転換や進展を重ねてきた現在状況である」といえる．人にとって根源的であり，かつ社会や文化によって行為の対象や概念が異なる化粧．簡潔に定義することはできない「化粧」を文化的視点で考える．

化粧とは？

化粧のはじまりは，４～５万年前ともいわれている．旧石器時代のスペインの洞窟で赤い顔料で描かれた人物壁画を元始化粧とする学者もいるが，化粧行為が確認できるのは古代エジプトからである．日本では，縄文時代の土偶の顔面にある装飾模様が，最も古い時代の化粧とされている．長い人類史において社会や文化とともに進展してきた「化粧」は，行為や概念も変遷を重ね多義的である．そうした化粧をいくつかの構造に分解し整理してみる．

化粧行為

人類学では広義の化粧行為を1）身体変工：身体の一部を加工する行為，2）色調生成：皮膚に永久的に色や模様を加える行為，3）彩色：一時的に皮膚に色やツヤを与える行為と分類しているが，現在の化粧・美容に対応した分類を試みてみた．

①塗布…顔・身体への化粧料などの塗りつけ
②着装…身体への飾り物の着装（ピアッシング，つけ睫毛など）
③表面加工…長期的に保持される身体の一部への加工（タトゥー，瘢痕など）
④施術…美容を目的とした身体への施術（美容整形，プチ美容整形，脱毛など）
⑤補助…美容効果の増進を目的とした行為（エステティック，美容機器の使用など）
⑥健康ケア…美容を健康の観点で身体ケアする行為（食事，入浴，ヨガやピラティスなど）

①②③は古代から行われてきた化粧行為，④⑤⑥は近・現代の美容法の発展や認識の広がりによって拡大した項目である．

化粧の目的

人はなぜ化粧をするのか？ 先行研究で久下司は化粧の起原を「美を求めるのは人間の本性である」「自分の容姿を美化することによって少しでも老いることを防ごうと心がける．これが美粧であって，そのために化粧が用いられる」と書いている．化粧の定義はさまざまであるが，目的は樋口清之の意見を参考にした4項目の分類が一般にいわれている．

①本能的目的…性的誘惑や婚姻意思の表明など性的本能，美の演出など快楽本能の表出
②実用的目的…皮膚の保護，容貌の隠蔽，カムフラージュなど
③信仰的目的…呪術，禁忌，信仰集団の標示など
④表示的目的…部族集団，職業，階級，姓氏などの表示

化粧をする動機

化粧をする動機・内面的要因については3項目に分類される．

①社会的要因…社会生活環境や対人関係などにおける周囲との同調や周囲からの要請への対応
②心理的要因…変身願望，自己愛など個人的欲求の充足．周囲と同調し承認を得ようとする欲求と他人との差別化・独自性を求める欲求の二律背反する心理を内包
③皮膚管理的要因…美しさを所与のものとして，肌を健やかに美しくしていたいという意識

本来，化粧の目的や動機は，皮膚ケアと社会規範と美の演出の3つを兼ねるなど重層的であり，時代とともに多様な意味と内容の行為へと進展している．